

平成28年度指定管理運営業務評価票

|                 |                   |                           |                   |
|-----------------|-------------------|---------------------------|-------------------|
| 施設名称：大阪府立少年自然の家 | 指定管理者：少年自然の家共同事業体 | 指定期間：平成28年4月1日～平成37年3月31日 | 所管課：市町村教育室地域教育振興課 |
|-----------------|-------------------|---------------------------|-------------------|

| 評価項目            | 評価基準（内容）                  | 指定管理者自己評価   |   | 施設所管課の評価 |  |     | 評価委員の<br>指摘・提言 |  |
|-----------------|---------------------------|---|---|----------|--|-----|----------------|--|
|                 |                           | 評価（内容）  | 評価  | 評価内容     | 基準ごとの評価  | 評価  |                |  |
|                 |                           |   | S～C   |          | S～C  | S～C |                |  |
| I 提案の履行状況に関する項目 | (1) 施設の設置目的及び管理運営方針       | ① 社会教育施設としての設置目的及び管理運営方針に則り運営がなされているか   | ・施設の設置目的である、心身ともに健全な青少年育成を図るため、利用団体と十分なプログラム相談と利用打合せを行い、その目的の達成度の向上に努力を続けている。   | S        | 体験活動を通じた青少年への教育効果を発揮できるよう、利用団体への適切な助言、個人利用者向け自然体験プログラムの提供等を行い、青少年の健全育成を支援している。   | S   | S              |  |
|                 | ② 法令遵守の取組み状況は適切か          | ・法令遵守について、消防及び保守点検はチェックリストを作成するとともに、施設運営に関わる旅館業法、食品衛生法などの各種法令を遵守し、不備が無いように努めている。また、施設運営に関わる旅館業法、食品衛生法などの各種法令を遵守し、快適な宿泊環境作りと食の安全確保に努力しており、年度を通じて利用者に支障をきたすような事故は発生していない。 |   |          | 施設設備における各種法定点検は問題なく実施されている。点検の結果、是正が必要になった場合は速やかに府に報告し協議や対応を行っている。その他、施設運営に係る法令、規則をはじめ、通知等も遵守しており、適切に管理運営されている。                                  | A   |                |  |
|                 | (2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果   | ① 利用承認、事業の実施等において平等利用が確保できているか  | 利用者が施設を使う前に、施設生活について手引きを使ってわかりやすく説明している。職員との事前打合せを通して個別に活動計画を立ててきめ細かく助言した。行事の内容、チラシや参加要項、受付方法なども平等利用が確保されるように配慮しながら実施している。府民に広く情報が届くように、広報媒体はインターネット配信や地域コミュニティ誌への掲載など、積極的に展開している。障がい者対象の事業は、支援学校在籍者全員（約9,000枚）にチラシを配布している。   | A        | ・公平公正を最重要視して、施設の利用許可を行っている。体育館、研修室等の利用時間についても各団体の希望を聞き取り、平等になるよう工夫している。<br>・事業の実施にあたって、情報が公平に届くよう、インターネットのほか、参加対象層に応じた広報手段を選択し、届くべき人に届くよう努力している。 | A   | A              |  |
|                 |                           | ② 障がい者、高齢者、外国人等に対する案内等の配慮は適切か   | 構成団体の自主研修では「人権研修」のプログラムを必須とし、職員全員が受講予定である。ユースホステル協会は「多様性について考えよう～目に見えないものを見る」、青少年財団は「より良い組織のために～コミュニケーションのスキルアップ」を実施した。障がい者、高齢者の利用に際しては事前の下見や相談打ち合わせ等を十分に行い、支援体制を整えている。具体的には障がい者には活動しやすい階の部屋の利用を優先し、食事については摂取障がいへの対応を行っている。また、所内での移動の際、公用車にて送迎を行い、また、障がい者浴室の優先利用を実施している。車いすは常時使用できるように整備している。外国人に対するパンフレット、案内表示も順次作成し導入する予定である。 |          | 職員に対し人権研修を行い、特別な配慮を必要とする利用者をはじめ、各利用者に応じたサービスを心がけている。今後も、障害者差別解消法等を踏まえた適切なサービスに努めるとともに、外国人団体の受け入れもより積極的に行い、HP、パンフレット、案内表示等の外国語対応もされたい。            | B   |                |  |
|                 | (3) 利用者の増加・サービスの向上を図るための具 | ① 日帰り・宿泊合計の年間利用者数<br>（目標：宿泊数 57,700 人、日帰り数 43,600 人 合計 101,300 人 【うち9-3月 宿泊数 19,000 人 日帰り数 19,600 人】）（昨年度：99,721 人 【うち9-3月 宿泊数 18,672 人 日帰り数 14,106 人】）                 | 平成29年1月5日現在 宿泊数 55,307 人 日帰り 40,629 人 合計 95,936 人【うち9-3月 宿泊数 17,423 人 日帰り数 12,211 人】  | A        | 1月末までの利用者数は88,390人であり、2月1日時点での2、3月の予約人数は、8,223人であり、年間目標には達しない見込み。目標達成に向けて引き続き努力されたい。   | A   | A              |  |
|                 |                           | ② 施設・設備への投資が適切になされているか<br>（平成28年度予定投資額：3,971,160円）  | ・「森のバーベキューガーデンの設置」は未実施。   |          | ・森のバーベキューガーデンの設置に向け、   | A   |                |  |

|  |   |   |   |  |   |  |
|--|---|---|---|--|---|--|
| 体的手法・効果  | (内容：5年終了時までに森のバーベキューガーデン、インターネット回線を整備する)  | ・「インターネット環境の整備」施設のネットワーク回線をISDNから光ケーブル回線に変更。大・中・小研修室へ有線LAN設置、カリヨンホールに無料WiFiを設置した。投資額は、ケーブル工事1,852,200円、フリースポット機器106,259円、配線工事317,520円、通信費154,656円、社内LANの整備49,680円 合計2,480,315円                                    | 所管課と関係課との協議への協力により、H29年春には設置される予定。<br>・インターネット回線工事については、5月に完了。研修等に活用できるようになり、利用者にも好評。リピーター増加へ期待できる。               |  |   |  |
|  | ③主催プログラムが適切に実施できているか  | 「ワイルドキャンプ」「乗馬体験」は毎年抽選になるほどの人気事業であるが、昨年に引き続き「中高生チャレンジキャンプ」は中止、「森の絵本作り」は集客に苦戦した。今回は参加対象を変えるなどの工夫で実施、集客につなげたい。今回初めて実施した「森の読み聞かせ」は、オープンデイと同時開催することで多くの参加者を獲得できた。  | 以下により、適切に実施していると評価する。   | A  |   |  |
|  |   | ・実施回数 平成28年度目標：7回   | 目標7回のうち6回実施予定。<br>実施済および予定5事業6回（乗馬体験2回、子どもワイルドキャンプ、森の絵本作り、森の中で読み聞かせ、不登校支援）、中止（中高生チャレンジキャンプ）                       | 概ね提案どおり実施している。（評価A）  | A |  |
|  |   | ・申込者人数 平成28年度目標：160人以上（募集人数231人の7割下1ヶタ切り捨て）   | 乗馬体験2回104人（11月49人、3月60人予定）、子どもワイルドキャンプ23人、中高生チャレンジキャンプ中止、森の絵本作り9人、森の中で読み聞かせ150人、不登校支援15人（3月予定）、＝合計301人（1月現在、予定含む） | 目標数を達成している。しかし、人気のある事業とそうでない事業が二極化しているので、参加者が少ない事業については、次年度以降、内容、開催時期等再考されたい。（評価S） |   |  |
| ・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）                                     | 自然の中での体験活動を通じて、主体性や社会性を育む機会を推進するもの、創造性を育むもの、自己への挑戦の場を提供するものなどをねらいに実施している。事業後、参加者アンケートを実施し、どの事業も満足度は高い。たとえば「子どもワイルドキャンプ」参加者の保護者からは「自発的に行動がとれるようになった」「成長がみられる」などの声が聞かれた。長期宿泊自然体験の中で子ども達が様々な経験を積み成長を促すことができたことと分析する。広報はホームページへの掲載、過去参加者へのダイレクトメール、メーリングリスト、府内公共施設へのチラシ配布（図書館や公民館）、民間のWEB媒体へ掲載した。活動の様子をfacebookにわかるようにした。 | 「大変良かった」という回答が9割を超え、事業の内容は高く評価できる。保護者の方へのお知らせも兼ね、facebookに活動の様子を掲載することは、新規利用を開拓するきっかけにもなっていると考えられる。今後も指定期間を活かして、各分野の専門家や関係機関と連携して現事業の発展や新規プログラムの開発に努めていただきたい。（評価A）  |   |  |   |  |
| ④広報・情報発信の取組みが適切になされているか（広報手段、広報先、学校への営業活動、野外活動スキルの普及活動等） | 大阪府と連携し各種広報活動を展開している。府内公立小中学校の校長会における施設紹介を実施。主催・自主事業のチラシを図書館、公民館など府内各施設へ配布した。マスコミへのニュースリリースや貝塚市の広報誌への掲載依頼を行い、ホームページやfacebook、ツイッターにも最新の情報を掲載している。民間のWEB媒体（いこーよ、マップル、イベントバンク登録、コスプレアーカイブなど）事業ごとに広報先を選定し、誘致活動を行った。学校が利用場所の選定にあたる5月中旬に大阪府内303校の小中学校にDMを送付し、電話営業などを実施した。その結果4校の利用を獲得した。                                   | 主要な利用者である学校団体に向けては、これまでの経験に基づき効果的と判断した時期にDMを送付する、過去に利用があったが現在は予約の入っていない学校に営業を実施する等、データや経験を活用して広報を実施している。学校団体以外の利用者層の開拓には、WEBを活用するほか、ドローン関係の団体等、施設の利用につながる見込みのあるターゲット層へ個別に広報し、精力的に取り組んでいる。<br>更に、ターゲットごとに広報手段を検討し、 | A   |  |   |  |



|  |                     |                            |   |   |  |  |   |   |
|--|---------------------|----------------------------|---|---|--|--|---|---|
|  | 合                   |                            | <p>力等</p> <p>関空海保航空基地等に協力、災害救助訓練の場所を提供した。6月環境月間、7月省エネルギーのための「みんなでおでかけクールシェア」、8月「山に親しむ推進月間・おおさか山の日」、11月「子ども読書活動推進」、12月「地球温暖化防止月間」への協力を行った。</p> <p>・行政の福祉化</p> <p>知的障がい者を1名、清掃業務に継続雇用している。大阪府商工労働部と連携し、高齢労働者就労自立支援事業の就労場所として自然の家を提供している。</p> <p>・環境問題への取り組み</p> <p>節電キャンペーンのポスター掲示、節電巡回の実施、デマンド監視装置による電力需要の抑制、グリーンカーテンの設置などによりCO2削減に努めた。持込ごみ処理の有料化を導入することにより、ゴミの排出量を抑制した。</p> <p>・府民、NPOとの協働</p> <p>・大学生、社会人を主体とした専属リーダーは、主に自主事業におけるリーダーとして活動している。年2回の研修を行い、常にスキルアップと連携を深めている。シニアを中心としたボランティアグループには敷地内の環境保全、利用者が自然工作や観察などを行う際の指導、炊飯やレクリエーション、キャンプファイヤーの指導などを依頼している。</p> <p>・自主事業では「ツリーイングクライマー資格認定講習」「プロジェクトラーニングツリー指導養成講習会」「森の絵本作り」などにおいて講師派遣を依頼し、広く府民やNPO団体と協働した。</p> |   | <p>定への合格者特典への協力も行っている。<br/>(評価S)</p> <p>知的障がい者の清掃現場就業について提案通り実施されている。(評価A)</p> <p>所内での節電、利用者への啓発をはじめ、全体で環境保護に取り組んでいる。(評価A)<br/>引き続き、省エネやごみ減量等に努められたい。</p> <p>継続して施設リーダーの養成を行い、スキルアップに努めていること、また、ボランティアグループと友好的な関係を築いて、事業実施の際、参加者をきめ細やかにサポートできるよう取り組んでいる。<br/>また、開催場所が少ない自然体験活動指導者講習において、専門団体と協働し、講習会を実施する等、府立施設としての役割も果たしている。(評価A)</p> |  |   |   |
|  | IIさらなるサービスの向上に関する事項 | (1)利用者満足度調査等               | ○利用者満足度調査を実施し、分析結果をフィードバックしているか   | <p>施設利用、活動プログラム、食事に関するアンケートを実施している。上半期の回収率は27年度43%より28年度71%と大幅にアップしている。アンケートは口頭でも確認している他、すぐに対応できるものは早急に改善している。集計結果は職員全員が周知するとともに全体会議の場で議題にしている。アンケートの意見とその対応を定期的にホームページに掲載している。</p> | A  | アンケートの回収率の低さが課題であったが、アンケート用紙の配布方法を工夫することで、回収率が上昇し、より利用者の声を聞くことができるようになった。今後も有益なフィードバックが得られるよう努められたい。 | A | A |
|  | (2)自主事業             | ①施設の設置目的に応じた事業が適切に実施されているか | <p>「フォレストジュニアクラブ」は年6回のうち5回までが終了、3月に6回目を行う予定。「ツリーイング」4月講習会は延期、12月の講習会と合同で実施した。「ホタル観賞のゆうべ」は雨天の為3回目が中止。「自然環境・野外活動指導者養成」はグローイングアップワイルドからプロジェクトラーニングツリーに講習内容を変更した。「近隣市町村との連携支援」では、出前講座の依頼があり8月岸和田市、3月八尾市にて実施予定。インターシップは大阪体育大学と連携し、5名受け入れた。全10事業のうち、現在までほぼ予定通りに実施した。それぞれ自然の中で心豊かな子どもの育成を図るという設置目的に合致したプログラムを実施している。</p> <p>・実施数 平成28年度目標：10事業</p>   | S   | <p>以下により、適切に実施していると評価する。</p> <p>提案どおり実施している。中止になった野外活動講習会については、専門スキルの普及という府施設としての重要な役割でもあるため、時期や方法を改善し、参加者を</p>  | A  | A |   |

|  |                                 |  |  |  |          |  |
|--|---------------------------------|--|--|--|----------|--|
|  |                                 | <p>1回、プロジェクトラーニングツリー1回、野外活動講習会1回、インターンシップ1回、出前講座2回)、中止(ホテル観賞のタペ1回、野外活動講習会1回)</p> <p>・参加者人数 平成28年度目標: 500人以上</p> <p>・内容(教育効果・参加者満足度・広報等)</p>  | <p>フォレストジュニアクラブ137人(1-5回113人+6回24人予定)、まるかじり3回73人、ホテル観賞のタペ2回68人、ファミリーキャンプ20人、ナイトハイク37人、アドプトフォレスト36人、ツリーイング6人、プロジェクトラーニングツリー9人、野外活動講習会5人、出前講座84人(8月34人+3月50人予定)、インターンシップ5人 合計480人(1月現在、予定含む)</p> <p>自然の中での体験活動を通じて、主体性や社会性を育む機会を推進し創造性を育むもの、自己への挑戦の場を提供するもの、食育を推進し、基本的な生活習慣を身につけるものなど、年間多くの自主事業を実施している。参加者から各回アンケートを実施している。特に年6回実施される「フォレストジュニアクラブ」の参加者からは、「1回、2回と参加の回数を増やすごとに我が子の変化を感じられる」「学校や地域とは違う人間関係が構築され良い影響を受けている」など、評価は高い。広報としては、ホームページ、SNS、府内公共施設(公民館・図書館)へのチラシ配布、民間のWEB媒体による誘致(いこーよ・自然体験.com・イベントバンク)などを掲載を依頼した。また活動中の様子をfacebookでリアルタイムに発信し、参加者の家族からは「安心できる」「活動の様子が分かってうれしい」などの声をいただいた。</p> | <p>増やすようにされたい。(評価S)</p> <p>未実施の事業も含まれるが、概ね目標に近い人数まで達成できる見込み。今後も人気のある事業に加え、多様な事業を展開されたい。(評価A)</p> <p>指定管理者の専門スキルを活かした様質の高い事業展開により、参加者の満足度は高い。広報については、多様な手段を活用して行っているものの、参加者が最小履行人員に満たない事業もあり、引き続き、ターゲットに合わせた効果的な広報に取り組んでいただきたい。(評価A)</p>  |          |  |
|  | <p>②その他の自主事業が提案のとおり実施されているか</p> | <p>大人向けの事業として「おとなのえんそく」と「森の婚活」を実施した。自然の家の豊かな自然に触れ、新たな発見と出会いがあったと、参加者からは好評であった。その他、コスプレは昨年同様、参加者の満足度は高かった。今年度まだ実施できていないシニア向けの事業は次年度の課題である。</p> <p>・実施数 平成28年度目標: 6事業</p> <p>・参加者人数 平成28年度目標: 1,100人以上</p> <p>・内容(利用促進につながっているか、利用者満足度等)</p> | <p>目標6事業で6事業を実施予定。実施済および予定6事業(おとなのえんそく3回、家族でたき火を楽しもう7回、コスプレの森7回、森の婚活1回、地域連携ゆったりウォーク1回、親子のセミナー1回)、中止(おとなのえんそく1回、親子のセミナー1回)</p> <p>おとなのえんそく12人、家族でたき火を楽しもう350人(予定)、親子のセミナー20人(予定)、コスプレの森250人(予定)、森の婚活21人、オープンデイ803人 合計1456人(1月現在 予定含む)</p> <p>「おとなのえんそく」「コスプレの森」「森の婚活」は、従来の客層とは違う世代や対象の利用を促進した。利用者アンケートからも「こんなに良い場所とは思わなかった」「もっと大々的に広めていきたい」などの良い評価を得ている。青年層の特徴として、SNSを通しての口コミが盛んで、自然の家のホームページ以外に、参加者同士がツイッターやSNSで広め、参加者の拡大にも</p>  | <p>全て新事業であったが、提案どおり実施できており、利用者層拡大に寄与した。次年度以降も魅力ある事業の実施に期待する。</p> <p>提案どおり実施できている。中止になった事業については、今回の経験を活かし、時期等を工夫し、次年度以降実施されたい。(評価A)</p> <p>今後実施する事業も含まれるが、目標は達成できると見込まれる。今後も多くの参加が見込まれる事業を期待する。(評価A)</p> <p>自然と触れ合いながら活動することで、年代に関係なく生涯学習・自己研鑽の場となっていると同時に利用者層の拡大、閑散期における施設の有効活用につながっている。次年度以降も様々な工夫を行い、満足度の高い事業を展開されたい。(評価A)</p> | <p>A</p> |  |

|  |                       |  |   |   |  |   |   |  |
|--|-----------------------|--|---|---|--|---|---|--|
|  |                       |  | つながっている。  |   |  |   |   |  |
|  | (3)その他<br>創意工<br>夫    | その他のサービス向上につながる取組み、創意工夫がされているか         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れに関するサービスとしては、ホームページを活用し、空き状況や事業の内容、キャンペーンや新着情報を掲載している。また、リピーターには予約の開始時期をお知らせするサービスを実施。また、利用の3か月前、直前に電話による予約確認作業を行っている。営業時間に連絡が出来ない利用者や事前打ち合わせに来られない利用者にはFAX、メールなどで対応している。</li> <li>・早朝及び夜間利用に柔軟に対応した。閑散期には「冬季限定利用キャンペーン」を設定し、施設の優先予約を実施した。</li> <li>・食堂では、食育の観点から「栄養バランス」「食の安全」に留意して提供している。直営にて一括運営を行うとともに、常勤職員として管理栄養士を配置し食事アレルギー、宗教や信条への配慮等にもきめ細かく応じている。</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページとフェイスブックページの更新頻度を上げ、従前より細かくイベントの実施状況等を掲載し、施設を利用したことがない層にも利用を働きかけている。</li> <li>・教育施設である基本に忠実に、利用者と利用日まできめ細やかに打ち合わせを実施し、教育効果の向上と次回の利用につながるべく努力している。</li> <li>・閑散期の利用促進のために新キャンペーンを開始するなど努力しているが、実績にはつながっていないので、次年度以降、より積極的な営業活動を期待する。</li> </ul> | A | A |  |
| Ⅲ<br>適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目 | (1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度 | ①収支計画の妥当性及び事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～12月の収支について、収入は施設／予算比86%、昨年対比96%、食堂収入／予算比97%、昨年対比100%。支出は施設／予算比91%、昨年対比101% 食堂／予算比97%、昨年対比102%となった。ほぼ事業計画通りに推移する見込み。</li> <li>・事業、管理体制は計画に基づき適切に運営している。</li> </ul>   | A | 四半期報告書等から計画との整合性を確認している。   | A | A |  |
|  |                       | ②収入確保や管理コスト削減の取組みは実施されているか             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用獲得の営業およびリピーターの確保、事業参加の広報強化により収入確保に努力している。また、デマンド監視装置による電気料金の削減や、発注時の相見積りなど、常にコスト削減の意識を持って取り組んでいる。</li> </ul>  |   | 光熱費の削減や相見積りによる発注に取り組むほか、食堂への新メニュー導入等、収入と利用者満足度の双方がアップする取組みも行っている。  |   |   |  |
|  |                       | ③収支は計画どおり行われているか                       | 今年度の収支は、ほぼ計画通り行われている。   |   | 四半期報告書等から計画との整合性を確認している。   |   |   |  |
|  | (2)安定的な運営が可能となる人的能力   | ①管理運営業務全体として職員体制は適切か                   | 共同2団体により適切な職員配置をおこなっており、職員は、総括2名、施設管理部門9名、パート・アルバイト6名、食堂部門5名、パートアルバイト5名(繁忙期は増員あり)と、ほぼ計画通りに配置している。それぞれの資格、得意分野を活かすように人員を配置している。  | A | 繁忙期の雇用等、弾力的な人員配置を行っており、職員体制は適切である。   | A | A |  |
|  |                       | ②事業実施に必要な人員数の確保・配置従事者への管理監督体制・責任体制は適切か | 事業実施の際には専任の職員が主、副担当として配置している。事業の内容や人数により、ボランティアリーダーが補助にあたるなど、必要な人員は確保できている。また、事業実施時には、所長もしくは副所長が在席し、適切な管理監督をおこなっている。  |   | 活動プログラムを事故なく安全に実施できていること、活動プログラムに関するアンケートでも満足度が高いことから、必要な人員の確保ができています。   | A |   |  |
|  |                       | ③年間研修計画策定し、適切な研修体制の整備、職員の指導育成を行っているか   | 構成団体個々の部内研修に参加し、「人権研修」、「自己理解・多様性研修」、「ハートプログラム研修」を受講した。「近畿地区青少年教育施設協議会」研修への参加、「大阪府青年の家等連絡協議会」の事務局として総会を実施予定。年間計画を策定し、「企業向けマネージャー研修」「人権教育地区別セミナー」、キャンプ協会主催「リスクマネジメントセミナー」、「ツリーイングイン   |   | 全体研修に加えて、各担当業務に応じた研修を受講していることは評価できる。今後も指定期間を活かした職員のスキルアップに努められたい。  | A |   |  |

|                       |                        |   |                      |   |                          |   |   |  |
|-----------------------|------------------------|---|----------------------|---|--------------------------|---|---|--|
|                       |                        |   | ストラクチャーミーティング」に参加した。 |   |                          |   |   |  |
| (3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤 | ① 運営基盤として、事業者の経営状況は適正か | 共同事業体を構成する2つの団体、公益財団法人大阪ユースホテル協会、一般財団法人大阪府青少年活動財団は、ともに安定的な経営を維持している。      |                      | S | 構成2団体とも、経営状況、財務状況に問題はない。 | A | A |  |
|                       | ② 運営状況として、事業者の財務状況は適正か | 平成27年度決算上でも、両団体ともに財政状況は健全であり、適正に執行されている。四半期ごとの正味財産増減計画書とともに期日を厳守して提出している。 |                      |   |                          | A |   |  |

○各評価項目についてS（優良）、A（良好）、B（ほぼ良好）、C（要改善）の4段階で評価をする。

○指定期間10年によるデメリットの抑止策

I (3) ①年間利用者数

目標利用者数の【100%以上…S / 目標値の85%以上100%未満 …A / 70%以上85%未満 …B / 70%未満 …C】

ただし、6年目以降は、目標利用者数未達及び1～5年目の平均年間利用者数を下回った場合は「C（要改善）」とする。

I (4) 施設管理・・ 正当な理由なく、各年度の修繕費の実績（具体的な予定額含む）が提案による計画の90%を下回る場合は「C（要改善）」とする。

○評価項目に複数の評価基準があるものについては、各評価基準につき評価項目と同じSABCの4段階で評価したうえで、

S（4点）、A（3点）、B（2点）、C（1点）として評価基準の平均値により評価項目の評価を、

平均得点が【 4～3.5 …S / 3.4～2.5 …A / 2.4～1.5 …B / 1.4～1 …C 】として決定する。

○評価基準に目標値が設定されているものについて

目標値の達成度が【 100%以上 …S / 目標値の85%以上100%未満 …A / 70%以上85%未満 …B / 70%未満 …C】

として評価を決定する。